

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

平成 29 年 8 月 30 日  
村山 章

8 月 31 日は「野菜の日」だそうです。全国青果物商業協同組合連合会などが「もっと野菜を知ってほしい。たくさん食べてほしい」と「8 (ヤ) 3 (サ) 1 (イ)」の語呂合わせで制定しました。「トマトはどうして赤くなるの？真っ赤に色づくのは動物にみつけて食べてもらうため。種を運んでもらって、別の場所でも子孫を残そうとしているのよ」という文章が新聞に載っていました。果物が甘くて美味しいのも同じ理由ですね。植物は食べられると喜ぶのですから大いに食べてあげましょう。逆に、人間以外のほとんどの動物は、天敵に食べられないように常に警戒しながら生きています。動物には神経や脳があるので食べられると痛いはずですが、植物にはないので痛みはないと思います。だから植物は食べられるのを望み、食べることで私たちの体も喜びます。

私事ですみません。私は新潟県の片田舎で生まれたので、たまに帰ると親戚が歓待してくれます。取れたての野菜が食卓に並びますが、「俺はきゅうりだ〜」「私はトマトよ〜」とでも言うかのような野菜たちの自己主張の強さにいつも驚かされます。食べると、野菜たちのおかげで内臓たちが喜んではしゃぎ回るかのようです。ご飯も本当に美味しくて普段の倍近く食べてしまいます。なぜこれほど違うのかと、不思議に思って炊き方を訊いたのですが、「ぬかで炊く」という答えが返ってきました。

植物は心だけで、動物はその心に知能がプラスされたと考えれば解りやすくなります。植物に運動器はなく内臓だけです。野菜の内臓波動と人間の内臓波動が大自然の宇宙波動と融合し人間の心が癒されるのではないのでしょうか。それは知能とは関係のない別世界です。しかし、だから私たちは本当に癒されるのではないのでしょうか。

野菜にもさまざまな種類がありますので、食べながら、野菜の内臓波動と自分の内臓波動を融合させてみましょう。味覚だけを追って食べないようにしたいものですね。